1 4.5
938

共榮圈資料
臨時輯

南洋の常識

神戸商工會議所外事課編

14・
938

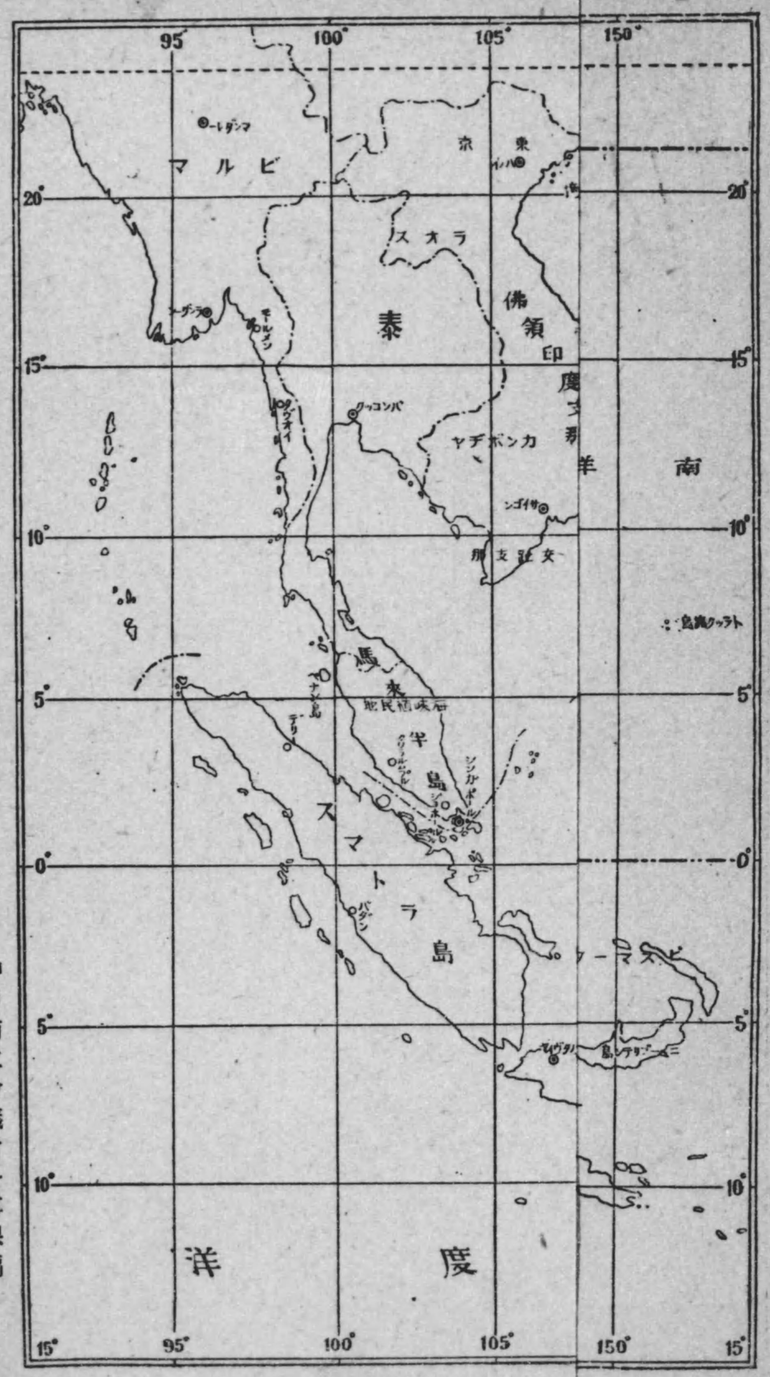
共榮圈資料臨時報

昭和十七年二月

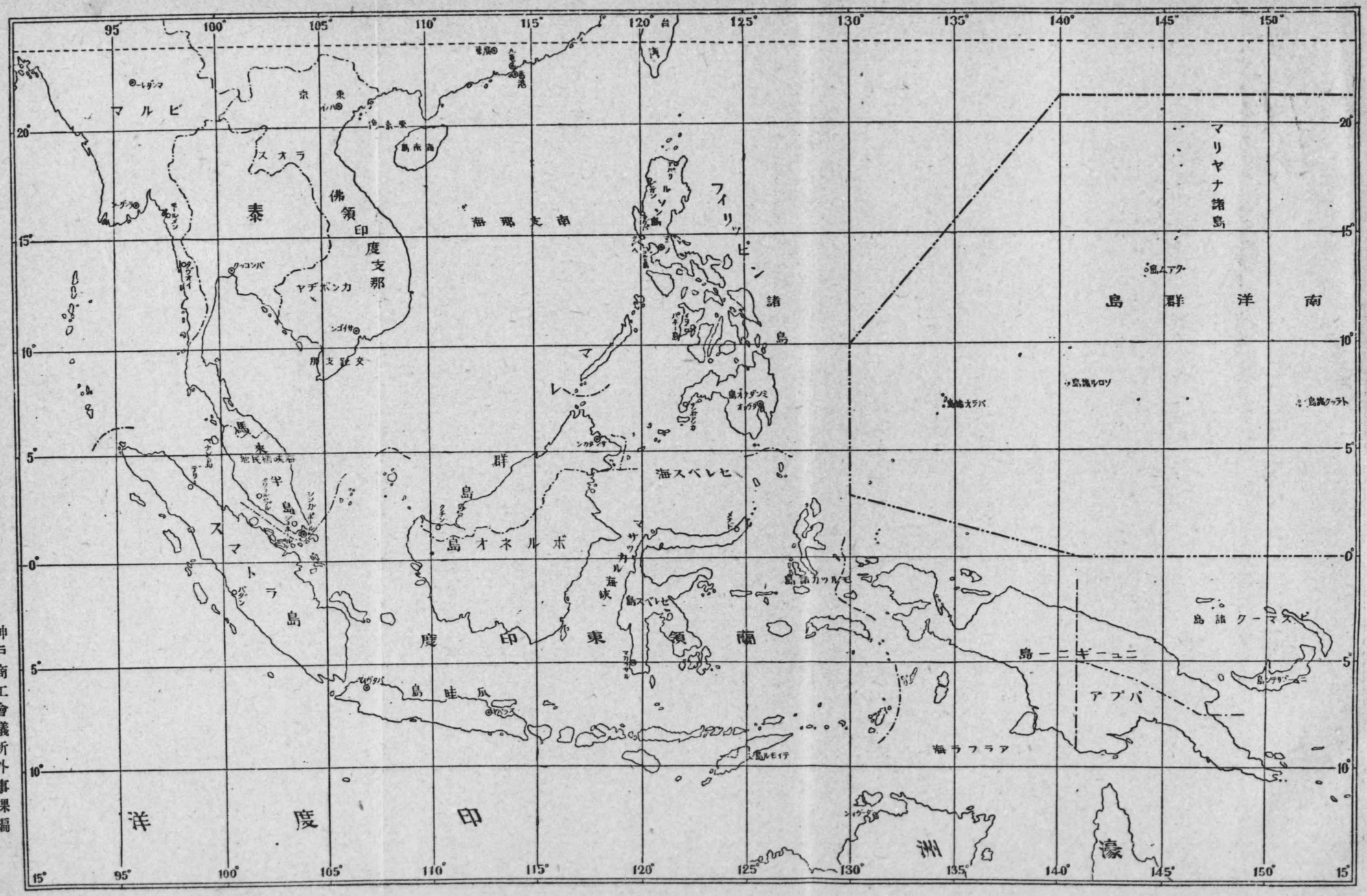
南洋の常識

贈呈

神戸商工會議所



神戸商工會議所外事課編



神戸商工會議所外事課編

南洋の事情を知らなければ新聞雜誌が讀めないのは勿論、日常の對話にさへも赤ひ顏をすることがある。それほど南洋の知識は一般的な常識となつて來た。

併しそれを簡單に纏めた一覽的な常識本とでもいふべきものがない。ポケットに入れて居て車中で讀んでもよい樣なものさへもない。それに南洋と云へば幾多の島國や各種の民族が散在してゐる。その政治、經濟、宗教等社會的事相は頗る多種多樣であつて、一寸正確に思ひ出せない點も時にある。斯うした考へからこの一覽的常識本を今回のシンガポール陷落の記念として臨時的に編輯せしめたものである。此の點敢て諒承を求むる所である。

昭和十七年二月

福本義亮

發行所保管本

14·5
938

凡例

一、本書は共榮圈資料臨時輯として、最近の南洋事情を概括的に一覽し得る如く編成した。

一、參考資料には能ふ限り確實なるものを選び、之に嚴密なる再檢討を加へ以て內容の正確を期したが、素より人智の爲すところ不備の點なきを保し難い。

一、出來得る限り現狀の紹介に努めたが、地方によつてはある種の重大なる支障を考慮して、最新の數字を記載し得なかつたものもある。

一、尙、各地域別によるより詳細なる調査の結果は、逐次續刊の共榮圈資料本輯として順次發表の豫定である。

一、附錄收錄の二篇は、素より南洋に關するものではないが、今次戰爭の勃發と同時に世人の關心がこれ等の方面に向けらるること愈々大なるに鑑み、最近の資料に乏しきを忍びつつも敢て編輯を試みたものである。

昭和十七年二月

神戸商工會議所外事課

「南洋の常識」目次

一、佛領印度支那……一
地域—面積—人口—氣候—歴史—幣制—言語—住民とその特性—華僑—資源及産業—貿易—交通

二、泰國……七
地域—面積—人口—氣候—歴史—幣制—言語—住民とその特性—華僑—資源及産業—貿易—交通

三、ビルマ……一三
地域—面積—人口—氣候—歴史—幣制—言語—住民とその特性—華僑—資源及産業—貿易—交通—ビルマ・ルート

四、英領マレー……一九
地域—面積—人口—氣候—歴史—幣制—言語—住民とその特性—華僑—資源及産業—貿易—交通

五、蘭領印度……二四
地域—面積—人口—氣候—歴史—幣制—言語—住民とその特性—華僑—資源及産業—
貿易—交通
六、フイリツピン……三〇
地域—面積—人口—氣候—歴史—幣制—言語—住民とその特性—華僑—資源及産業—
貿易—交通
七、英領ボルネオ……三六
地域—面積—人口—氣候—歴史—幣制—言語—住民とその特性—華僑—資源及産業—
貿易—交通
八、葡領チモール……三八
地域—面積—人口—氣候—歴史—言語—住民とその特性—資源及産業—貿易—交通
九、米領南太平洋諸島……四一
グアム島—サモア島

附　錄

一、最近のハワイ事情……四五
概觀—軍備—産業—貿易—交通及通信
二、米領太平洋航空基地概觀……五一
ミツドウエー島—ウエーク島(大鳥島)—ハウランド島—ベーカー島—カントン島—エンダーベリー島—パルミラ島—ジヤーヴイス島—ジョンストン島

南洋の常識

一　佛領印度支那

〔地域〕印度支那半島の東半を占め、南北約一千六百粁、東西約七百六十粁にして、北は中華民國の廣東、廣西、雲南の三省に接し、南と東とは南支那海と泰灣とに面し、西は泰國とビルマとに境を接してゐる。

〔面積〕約六十三萬平方粁にして、フランス本國の約一倍半、我が全土よりは約五萬平方粁小である。

〔人口〕約二千二百萬人にして、その人口密度は一平方粁當り三十五人强である。

〔氣候〕熱帶乃至亞熱帶の特徴をもつて居り、從つて暑氣强く且濕氣を帶びてゐるが、面積廣大のためその高度の差甚だしく、氣温は地方によつて著しく相違してゐる。例へば交趾支那に於ては一年を通じて寒暑の差が著しくないのに反し、北部東京地方では冬季と夏季とが截然と

區別されてゐる。雨量は一般に多く、殊に五月から十一月迄の雨季には毎日數回の驟雨が來る。

〔歴　史〕　佛領印度支那は嘗ての安南國で紀元前二百年代より紀元七百年代までの支那の版圖であつたが、フランスの安南侵略は一七八七年の親交條約以後のことである。その後一八〇二年には現安南國朝の始祖、阮福映はフランスの援助のもとに當時混亂その極に達してゐた安南を平定するに及んでよりフランスの干渉次第に繁く、その帝國主義的植民地政策は一八五九年遂に安南とも干戈を交へしむるに至つたが、安南大敗して一八六二年サイゴン條約締結によりフランスは交趾支那を得、更に翌年にはカムボヂヤをその保護下に置いた。フランスはその後も矛を收めず一八八四年には東京地方を、同九三年には西部邊境ラオスをシヤムより得、更に一九〇四年にはメコン西岸ランプラパン地方を佛領と正式承認せしめ、同時にマルプレ及バルザク地方を得、更に一九〇七年パタンパン、シエム、ラップ、シソフォン地方をクラット港一帶の海岸地方と交換してシヤムとの間に國境を確認せしめた。その後一九四〇年九月には佛印・泰國境紛爭が勃發したが、日本の調停によつて圓滿に解決を見るに至り、翌四一年五月九日兩國間に平和條約が正式に調印せられ兩國間の友好關係は茲に回復するに至つた。而もこれと同時に日・佛印間に善隣

友好關係が樹立せられ兩者間に於ける經濟、政治、軍事に關する完全なる了解が成立した。尚前記平和條約による泰國への割讓部分に就ては別記泰國の項にて詳述することとする。

〔幣　制〕　現行貨幣制度は金本位制であるが一九三六年九月のフラン貨切下により金との兌換は停止されてゐる。貨幣單位はピヤストルで、一ピヤストルは十フラン、我が約一圓弱に相當する。尚この外、紙幣では印度支那銀行發行のものが流通してゐる。

〔言　語〕　佛領印度支那はその地勢的關係から亞細亞奥地との聯絡が便であつたため、古來この地に去來興亡せる人種の數も亦多く、從つて言語の種類も多種に亘つてゐる。泰語、安南語、モン・クメール語、チベット語及ビルマ語等がそれであるが、公用及商用には多くフランス語竝に英語が用ひられてゐる。

〔住民とその特性〕　佛領印度支那の住民はその種族が多岐に亘つてゐることは既述の如くであるが、その中最も多數にして民族意識强く且活動的であるのは安南人であり、全人口の七割四分を占めてゐる。安南人に次いでラオス地方に住む泰族系のラオス人があり、山間僻地にはインドネシヤ族の未開人が住んでゐる外、ミ・ユオン族、マン族等がある。安南人は人種的には蒙古系

のそれであるが、比較的早く蒙古族の母體から分れたらしく蒙古的な色彩は非常に薄く且文化的には支那の系統に屬して居り、村落共同體を基礎とする傳統的な農業經濟社會を營んでゐる。これに對して西方より海陸を經て侵入した印度文化の影響を享けたのがクメール族たるカンボヂヤ人で、彼等はその數に於て安南人に次ぐばかりではなく、文化水準に於ても亦之に次ぎ、泰國の影響を受けて佛教に歸依する者多く、又宗教と傳統との中に安住の生活を見出さんとする傾向が強く、現在その多くは無抵抗主義の民族になり終つてゐるが、カオダイ教を中心とする青年一派の動きに就ては今後相當注目すべきものがある。

〔華　僑〕　佛領印度支那に於ける華僑は總數約三十五萬、佛印人口の約一・五割を占め、出身地は主として福建、廣東及海南島である。彼等は商工業には勿論、水產、交通、其の他各種の仲介業、金融業方面にも確固たる地盤を築いて居り、殊にこの地の主要物產たる米と金融方面に對する彼等の勢力は頗る强大である。

〔資源及產業〕　佛領印度支那に於ける農產資源は米を始め、玉蜀黍、護謨、甘蔗、古々椰子、茶、煙草、落花生、苴麻、胡椒、カポック、珈琲、漆、棉花等多種に亘つてゐるが、就中米はこの

地產業上に最重要性を持ち、米價の消長はこの地の經濟を左右するに十分である。

次いで鑛產資源豐富にして、石炭、錫、亞鉛、タングステン等の主要鑛產物を始め、金、銀、銅、鉛、鐵、マンガン、アンチモニー、燐鑛石及寶石等があるが、以上の中、石炭は鑛產物の全產額の八割乃至九割を占めて居り、上記錫、亞鉛、タングステン竝に燐鑛石等の產額も可なりの數に上つてゐる。

又全土の六割近い面積卽ち四千三百四十萬ヘクタールが森林地帶である關係上、林產資源は殆ど無盡藏であるが、現在その大部分は未開發の儘であり、僅かにチーク材を產出してゐるに過ぎない狀態である。更に又、海岸線の延長が遠く二千七百粁にも及んでゐるため、水產物も亦豐富であるが、漁撈方法幼稚なるため、漁獲量は僅少である。この外、安南、東京、交趾支那の鹽田にて製鹽が營まれその將來は林業と共に大いに期待されてゐる。その他工業に於ては精米業、釀造業、製糖業等が行はれてゐる。

〔貿　易〕　佛領印度支那の貿易は原料品、食料品を輸出し、工業品を輸入する所謂植民地貿易の定型である。今一九三九年度に於けるその外國貿易を見るに、輸出三億五千萬ピヤストル、輸

入二億四千萬ピヤストルにして著しい出超を見せてゐる。而して同年度の貿易總額の四二%はその本國が占めてをり、就中農產物の本國向輸出は米が二八%、護謨三五%、玉蜀黍六一%を夫々占めて居り、又輸入は織物七〇%、金屬製品七四%、金屬五五%にて如何に本國依存の度が高かつたかを知ることが出來る。

主要相手國は一九三九年度には輸出ではフランス本國が全輸出額の三二・二%で首位を占め、次いで米國の一一・九%、以下シンガポール、香港、英領印度等の順序にて日本は僅か四・六%であつた。一方輸入にありてはフランス本國の五五・九%を第一位とし、次いで香港、英領印度、蘭領印度、シンガポールの順であり日本は一・六%を占めてゐたに過ぎない。尙日本との貿易は、一九三九年度には日本よりの輸出は百九十八萬一千圓、佛印よりの輸入は二千六百六十五萬二千圓にして、その比率は實に十三對一で著しい片貿易であつた。

〔交　通〕 道路の體系は一九一二年以來整備され、今日では國道、地方道を合せて二萬七千五百粁に達してゐる。又鐵道は域內に約二千六百粁の外、別に五百餘粁が支那領土內に延びてゐる。水運は、メコン、ソンコイの兩河を除いては河川は概ね短く且急流であるためその便に乏しく、又海岸線は長いが良港に乏しいため、海運の發達は一般に遲れた方である。その他、航空網は相當の發達を見せてをり、我が大日本航空會社の東京、臺北、バンコック線はハノイに寄航してゐる。

二　泰　國

〔地　域〕 印度支那半島の中央部に位し泰灣に臨み、南方マレー半島に細長く延びてゐる。東は佛領印度支那にメコン河を境界として境し、西はビルマに接してゐる。

〔面　積〕 五十一萬三千平方粁にして、我が總面積の略々四分の三に當る。

〔人　口〕 一千四百四十六萬强にして、その人口密度は一平方粁當り二十八人である。泰族がその大部分を占め、次いで中國人と泰國人との混血兒及華僑にして、華僑は約六十萬人と推定されてゐる。これに次ぎ印度人及マレー人が約四十萬人、カムボヂヤ人六百人、歐米人約二千人である。

〔氣　候〕 泰國の全土は北熱帶圈內に屬してゐるため完全なる熱帶性氣候にして明確に乾雨の

二季に分たれてゐる。即ち乾季は十一月より翌年四月に至る間にて、雨季は五月より十月迄である。氣温は四、五月頃が最も高く平均九十三度である。

〔歴史〕十三世紀の初頭、揚子江流域より南移した泰族は、のち印度に侵入し、前住民族たるモンクメール人と結合してスコタイを首都とする簡素な族長制社會を成す獨立王國を樹立した。更に十四世紀後葉に至つてはアユチヤ王朝を建設したが、内憂外患絶ゆることなく、王朝の興敗すること三度に及んだ。

その後一七六七年四月に至り北方のビルマ族の侵略を受け、國都はその手に陷ち、アユチヤ王國はその四百年の歴史と共に亡び、一時ビルマの掌中に入つたのである。然るに一七八二年に至りて勇將チヤクリーは起つて國内を平定、バンコックに於て自ら王位に就いたのである。ラマ一世卽ちこれである。

然るにその後英佛兩國の侵略を受け、十九世紀の後半から二十世紀にかけてその領土は漸次縮少せられたが、その後立憲制を確立するに及び泰國は近代國家への革新發展の途に就いたのである。その後一九四〇年九月泰、佛印間に國境紛爭が勃發したが、日本の調停によつて圓滿に解決

を見、翌四一年五月九日これ等兩國間に平和條約が正式に調印せられるに及び兩者の友好關係は回復するに至つた。尙この條約によつて泰國が新たに領有せし部分は、舊ラオス州のパクライ、パサック地方竝にカンボヂヤの大部分で、その代償として泰國は佛印に對して六百萬ピアストルを支拂ふこととなつたのである。

〔幣制〕泰國の貨幣單位は一九二八年四月發布の通貨條例によりバートと定められたが、英語では一般にチカルと稱せられ一バートは我が約一圓六十錢に相當する。その後一九三三年五月十一日に金本位制から離脱して今日においてはその通貨流通手段は殆んど全部紙幣によつてゐる。

〔言語〕泰國の言語は所謂泰語であつて、公用にも商用にも廣く使用せられてゐるが、外國人の間には主として英語が主で佛語も相當に用ひられてゐる。加ふるにこの國の上流階級及上級官吏の間には英語を解するものが多い。又華僑の大なる勢力の影響を受けて支那語、主として廣東語も亦商用語として廣く使用されてゐる外、ラオ語及マレー語も用ひられ、就中前者は未だ泰化せざる北部及東北部に居住するラオ人の間に話されてゐる。

〔住民とその特性〕 泰國人の種別に就ては既に人口の項で述べたが、この國は古來印象的で香りの高い佛教寺院によつて世に知られた程佛教の盛んな國で、國民の宗教心は頗る厚く全人口の九割迄が佛教徒である。成年以上の男子はその生涯の中尠くとも三箇月間は僧侶生活を送らねばならぬ習俗があり、社會では一度佛門を叩いて得度した人間でなければ一人前の男子として取扱はないといふ徹底した歸依ぶりである。又この國では死人はこれを火葬にしてその骨灰は漆喰に混じて佛塔の周圍に塗り込んでしまふといふ珍しい習慣である。

斯くの如く佛教の力がその國民性に及ぼした影響は深甚なるものがあり、宿命的な人生觀から來る上長に對する服從心の強さは殆ど本能的とまで謂はるる程であり、消極的な處世觀はまたその經濟生活上に無力なる一面として現はれてゐるが、他方に於ては開放的で排他心のない自由な國民性を生んでゐる。

〔華僑〕 この國に於ける在留華僑は約六十萬人であるが、それ等は多く汕頭、廣州、海南島方面の出身であり、彼等は今や泰國經濟社會全般の中樞を掌握し、農業方面に於て農民生活を脅すのは勿論、製材、燐寸、染色、織布等の小規模工業に至るまでその勢力を及ぼしてゐる。茲に於て泰國政府はその經濟的壓迫を阻止する目的を以て一九二七年には入國法を制定したのを始め種々の對策を講じて之が入國を制限してゐる。

〔資源及産業〕 泰國はその氣候、風土の關係からして豐富なる農産資源を有してゐる。又東北部の高原は林業資源に、南部の半島地方は英領マレー同樣鑛産資源に富み、殊に錫が豐富である。

農産物では米が首位を占めてゐるが、これは年産三千七、八百萬石の中その四割もを海外に輸出してゐる。その他護謨、煙草、豆、玉蜀黍、棉花等が栽培せられてゐるが、就中棉花の栽培は最も良好な諸條件に惠まれてゐるため、その將來には大いなる期待がかけられてゐる。

次に鑛産物では錫が首位を占めて居り、世界産額の約二割、年平均一萬八千噸を産出し、世界の五大錫産地の一に數へられてゐる。その他金、ウオルフラム、アンチモニー、銅、石炭、鐵、銀、鉛、水銀、マンガン、モリブデン、亞鉛等が産出するが各々の産出量の詳細に就ては目下のところ不明である。

畜産業は農業、殊に米作に關聯して盛んであり、牛及水牛が多く飼育せられてゐる。

林業に於てはチーク材、紫檀、黒檀等が多く、殊にチーク材は中國人、ビルマ人等が特許を得

て採伐に當つてをり、その產額世界チーク材總產額の約六割五分を占めてゐる。

水產業に就ては、乾鹽魚の國內消費量は可成り多額に上り、生魚も亦相當消費されてゐる。併し漁撈方法幼稚なるため未だ大した發達も見せてゐないが、近代的、科學的漁撈方法が採用せられるに至ればその將來は大いに期待せらるべきものがある。

最後に工業に就ては、精米業が可なり盛んである外、製材、生絲、絹織物の諸工業も多少行はれてゐる。

〔貿易〕 泰國の貿易は常に出超を示し、毎年數百萬バードの差額を見せてゐるが、輸出品中米が首位にて約六割を占め、次いで錫、護謨、チーク材でこれ等四者にて總輸出額の八割九分を占めてゐる狀態である。又コプラ、皮革、家畜、鹽乾魚等も少量ながら輸出されてゐる。輸入の主なるものは、綿絲布の一割七分を筆頭に、絹製品、石油、ベンジン、金屬製品等で總輸入額の九割を占め、その他砂糖、罐詰食料品、煙草、麻袋、陶磁器、硝子製品等がある。

次に輸出先はシンガポール、ピナン、香港の三者で總額の七割を占めてゐるが、これは主として米に於てである。輸入相手國は日本が約二割五分で首位を占め、綿製品、人絹製品、雜貨、電

氣用品、セルロイド製品等を送つてゐる。第二位がシンガポール、次いで英國及蘭印である。

〔交通〕 泰國の交通には古くから河川の利用が盛んであつたため、道路は餘り發達してゐない。道路局の報告によれば、一九三八年一月一日現在に於ける國道の全長は二千百二十二哩であつた。鐵道は、一九三七年三月現在に於て全長一千九百二十五哩であり、又海運に於ては一九三七—三八年度のバンコック入港の船舶は八百二十四隻、百十一萬二千五百七十四噸にして、出港は八百二十四隻、百十一萬九千九百二十噸に上つてゐる。尙一九三六年七月一日現在の泰國所有船舶は十二隻、七千六百十六噸であつた。

ビルマ

〔地域〕 東南は泰國竝に佛領印度支那のラオスに接し、東北は中華民國雲南、西康の兩省に、西南及南はベンガル灣及マルタバン灣に臨んでゐる。

〔面積〕 その面積は六十萬五千平方粁にして、その中約四十二萬五千平方粁はビルマ本土で、殘りの十八萬平方粁は保護領であるが、この外に印度から分離する際に印度總督の統治下に殘さ

れたシャン土侯領五萬三千平方粁が從來のビルマ州に屬してゐたことを記憶しておく必要がある。

〔人　口〕ビルマの人口は一九三九年の調査によれば約一千五百九十五萬となつてゐる。これを人種別に就て見ればモンゴロイド人種に屬するものが九百萬人にしてその大部分を占め、その外シャン系及カレン系が各々百三十七萬人、チン系三十五萬人、その他コンゴロイド系に屬するものが四十萬五千人である。尚この外に外國人として中國人十九萬人、印度人百二萬人、その他若干である。

〔氣　候〕熱帶性にして、アラカン地方は北東及南西の季節風の影響により、雨量多く年五千粍にも及ぶが、中心部はアラカン山脈の蔭に入つて五百粍内外の乾燥地となつてゐる。

〔歴　史〕ビルマ人は蒙古族の末裔であり、彼等は西暦紀元前數世紀にこの地に移住し、イラワディ河の上流に王朝を建設したが、その一群は更に西方に進んでアラカン王朝、プロム王朝等を建設した。これと同時に印度方面から南方ビルマに漂着して現在のテナシリン州に王國を建設したのがタライン族にして、このタライン族と前記蒙古族の末裔たるビルマ族との間には長期に

亘つて民族闘爭が續けられ交互に王朝を樹立した。その中、過去のビルマ史上に輝かしい足跡を殘したのはビルマ族のパカン王朝にして、現在ビルマに殘つてゐる寺院佛閣の有名なるものの殆んど總てはこの時代に建造せられたものである。又十八世紀にはビルマ復興の祖と謂はれるオランバヤ王が近世のビルマ王朝を建設し、遠くマニプールや泰國にまで進出してビルマ史上稀に見る大發展を遂げてゐる。

歐洲人で最初にこの國の資源開發に着目したのはポルトガル人及オランダ人であつたが、その後英國は東印度會社をしてビルマに進出せしめると共に、オランバヤ王朝のビルマ平定に援助を與へることによつて商業上種々の特權を獲得し早くも今日のビルマ經營の礎石を樹てたのであつた。然るに第一次英緬戰爭の結果一八二五年には遂にアラカン、アッサム、テナシリンの三大地域を割讓するに至り、續いて勃發の第二次英緬戰爭も亦ビルマ軍の惜敗に終り一八三五年英國は戰勝によつて獲得したアラカン、ピーグ、マータバン、テナシリンを包括した地域を一方的に占有し、茲にビルマ侵略の巨歩を進めたのであつた。而して一八八五年勃發の第三次英緬戰爭によりビルマ王國はその終焉への一途を辿り、一八九一年遂に二千數百年に亘るその歴史を閉じるに

至つたものである。

斯くて英國はビルマ全土を征服するに及び、これを英領印度の一洲として合併せしめたが、一九三七年には分離して直轄殖民地とし今日に至つてゐる。

〔幣　制〕　印度よりの分離以前と同樣にして貨幣單位はインド・ルピーである。

〔言　語〕　古語はパリー語であるが、現在使用せられてゐるものは單綴語の多音複雜なものである。併しシャン語も亦使用されてゐる。

〔住民とその特性〕　ビルマ國人の人種別に就ては既に人口の項で述べたが、この國は泰國と同じく佛教の國であり、その人口の八割五分までが佛教徒で、僧侶の數も二十萬人を超えてゐる外、成年男子は總て三箇月以上の僧侶生活を送らねばならぬ習慣がある。ビルマ人はまた、極めて鬪爭心に富める民族にして、支配者たる英國人、經濟的搾取者たる印度人、支那人等に對しては、その民族的な反撥力の故に常に暴動をはたらき勝ちである。ビルマ人の缺陷は經濟能力が殆ど無いことで、そのため豐富なる資源の開發から得られる利益はその大部分を英國人、印度人、支那人等によつて占められ、ビルマ人は年と共にその生活が窮迫して行く狀態にある。又ビルマ人が

米を主食物とする外、蒟蒻、納豆を好んで食するところは日本人に類似してゐる。

〔華　僑〕　その數約十九萬に達し、商人や勞働者として有力な地位を占めてゐる。

〔資源及產業〕　ビルマは近代科學工業に缺くべからざる鑛產資源及熱帶資源に惠まれた土地であるが、就中前者はその小部分が英國人の手によつて開發せられてゐる以外は殆ど未開發の狀態である爲、現在の產業としては、何といつてもビルマ人自身の生活と直接關係のある農業がその代表的なものとなつて居り、農民は全ビルマ人の七割以上を占めてゐる狀態である。主なる農產物は米、棉、胡麻、椰子、護謨、玉蜀黍、落花生等にして、殊に米は所謂ラングーン米として知られ年產六百萬噸に及びその四割强を國內で消費する外は悉くマレー、蘭印、印度等に輸出してゐる。又棉は年產十萬俵乃至十五萬俵と謂はれてゐる。林業も亦盛んにして森林面積は二千二百萬英反以上に及び殊に造船材として有名なチーク材の年產額は約三十五萬噸に及んでゐる。

次に鑛產資源としては石油が首位を占め、イラワディ河流域到るところに油脈があるが、英國人及ビルマ人以外には調査も採掘も許されてゐないためその埋藏量は目下のところ不明である。年產額二億五千萬ガロン程度で、之が採油は英國のイラン石油會社と關係のある印度ビルマ石油

會社竝にビルマ石油會社が獨占してゐる。次いで金、銀、鐵、鉛、水銀、錫、亞鉛、銅等の外、アンチモニー、マンガン、モリブデン、タングステン、チタニユーム等が產出するが、就中アンチモニーは極めて優良なる鑛脈を有し、鐵も亦サルウイン河岸に大鑛脈がある。

〔貿　易〕　ビルマは斯くの如く農產、鑛產兩資源に惠まれてゐるため、その貿易尻は每年二億ルピー以上の輸出超過を示してゐる。主要輸出品は米、棉、木材、石油、タングステン等にして輸入品は綿製品、機械工具、食糧品等で、主要貿易相手國は印度、海峽植民地、英本國及日本等である。

〔交　通〕　ビルマの道路は甚だしく未發達の狀態にあり、鋪裝道路の延長は約四千粁と謂はれるが、これ等も重要都市を完全には連絡して居らず、道路による交通は概して不便である。從つて古くから河川の利用が可なりの進步を見せてゐる。鐵道の發達も亦遲れ、謂はば河川による交通の補助的狀態にある。尙現在の鐵道は延長三千三百粁にして中央低地に敷設されてゐる。

〔ビルマ・ルート〕　西南支那の對外通路の一で支那雲南省とビルマとを連絡するものである。このルートは雲南の昆明から下關、保山、龍陵、芒市、猛卯を經てビルマに到るものであり、昆明、猛卯間は約六百十八哩である。猛卯に對するビルマの都市は南坎で、これより南下して約百哩にしてラシオに達し、此處より鐵道又は河運によつてラングーンに到るのであるが、ラシオ、ラングーン間は鐵道で約五百哩である。昆明、猛卯間は支那事變の進展と共に蔣介石政權が急速に建設せし自動車道路にて約五日間を要し、猛卯、ラシオ間は一日行程、ラシオ、ラングーン間は二日行程、從つて昆明、ラングーン間は約八日間を要することとなる。尙一箇月の全輸送能力は六、七千噸と稱されてゐる。

四　英領マレー

〔地　域〕　英領マレーとは普通、マレー半島の南部を占むる大部分、北は泰國と境を接し、南はシンガポール島に至る地域の呼稱であり、行政上これを海峽植民地、マレー聯邦、マレー非聯邦の三つに區分されてゐる。海峽植民地はシンガポール、ピナン、マラツカ及ラブアンの四植民地より成り、マレー聯邦はペラック、セランゴール、ネグリセンビラン及パハンの四州より成り又マレー非聯邦はジョホール、ケダー、ケランタン、トレンガン及ペルリスの五土侯國より成つ

てゐる。

〔面　積〕　總面積は約十三萬二千平方粁で、我が北海道と九州とを併せた面積に匹敵する。

〔人　口〕　約五百三十萬、一平方粁當り平均人口密度は四十人である。尙この地の人口增加は著しく、最近三十年間に人口は二倍に增加した。

〔氣　候〕　純然たる熱帶性であるが、三方海をめぐらしてゐるため海洋性氣候の特色をも有つてゐる。卽ち高温、多雨、季節的變化に乏しいことがその特色である。又一年或は一日中の氣温の較差に乏しく、シンガポールの氣温は最寒月たる一月が平均二五・九度、最暑月たる八月が平均二七・九度、年平均二七・一度である。

〔歷　史〕　この地方が白人によつて侵略せられたのは一五一一年ポルトガル人がマラッカを占領したに始まる。英國は遲れて一七八六年東印度會社をしてピナンを讓渡せしめ、次いで一七九五年にはオランダからマラッカを讓り受け、一八一九年にはスタンホード卿がジョホール王からシンガポールを買ひ受けて植民地となし、爾後半島各地にあつて土侯連の勢力爭ひを利用してその勢力を扶植し泰國の領土を侵食し今日の如く廣大な面積を保護領として自國の手に收めるに至つたもので、この外ココス島は一八六九年、クリスマス島は一八八九年、ラブアン島は一九〇五年に夫々占領したものである。

〔幣　制〕　海峽植民地の本位貨幣はドルであつて、一ドルは二シリング四ペンスに相當する。マレー聯邦の夫れも亦海峽植民地の夫れと同樣にして普通シンガポール・ドルと呼ばれるところのものであり、その價値も亦前者と同樣である。尙通貨も兩者同一のものが流通してゐる。

〔言　語〕　マレー語を主とするも、英語、支那語竝にタミル語も使用されてゐる。

〔住民とその特性〕　住民はマレー人が總人口の約四割、中國人が三割九分、印度人が一割六分を占め、その他若干の歐洲人といふ割合であるが、マレー人は、他の多くの熱帶人種がさうであるやうに、極めて怠惰な民族であり、而もその人種的關係から統一性に缺き種々の弱點を持つてゐるところからその經濟的地位も常に在住華僑の手に奪はれてゐる狀態である。

〔華　僑〕　總數約七十萬人にして全人口の約四割を占めてゐる。特に海峽植民地ではその數マレー族の二倍以上にも達し、マレー聯邦に於てもマレー族より多く、唯非聯邦に於てのみ僅かに劣つてゐる狀態である。彼等は氣候に對する順應性强きため、今日マレー半島に廣く分布して、

農業勞働、農業經營、商業取引等の經濟上に勢力を得てゐる。殊にシンガポールその他の都市では支那人街を作つて商業上に活躍してゐる。

〔資源及産業〕 英領マレーに於ける護謨と錫の生産額は世界第一位であるが、中でも護謨産業は非常なる發達を見、半島自體にとつても第一位の産物であり、その産額は一九三三年度には四十七萬噸を突破して世界總産額の四割六分强を占めた程であつたが、一九三九年度には之が生産制限の結果三十七萬五千噸となり、世界總産額の三割七分を占めたに過ぎない。その他、農産物ではコプラ、胡椒、米、パインアップル、椰子油等熱帶の特産物が尠くないが、就中パインアップルの罐詰工業は年々非常なる發達を見せてゐる。

鑛業方面では錫を首位とし、鐵、マンガン、燐酸石灰、灰重石、ウオルフラム等が擧げられ、錫は世界總産額の三分の一を占め、嘗ては年産六萬六千噸に達したことがあつたが、近年は生産制限により相當減少してゐる。次いで鐵は日本資本の獨占にして石原産業、日本鑛業の兩會社が活躍してゐるが、その豐富なる埋藏量から鐵鑛業の將來には大いなる期待がかけられてゐる。

その他牧畜業では牛、水牛、豚、羊、山羊等が飼養され、又林業、水産等も亦相當に行はれてゐる。

〔貿　易〕 錫と護謨との世界第一の供給地であるため、貿易は盛大な上に出超を常態としてゐる。最近の輸出は六千八百萬ポンド、輸入は六千五百萬ポンドにて連年出超を續けてゐる。

重要輸出品は護謨にて總輸出額の約五割を占め、錫が之に次いでゐる。その他コプラ、パインアップル罐詰、バーム、鹽魚、鐵鑛等があるが、主なる相手國は最近までは亞米利加合衆國であり、次いで英國、英領諸國、歐洲諸國、日本等であつた。又輸入品は大半が護謨であるがこれは亞米利加へ再輸出せられてゐる。その他米、錫、煙草、綿織物、鐵鋼、石油、機械等があり、石油の輸入も亦再輸出のためである。主要輸入相手國は蘭領印度で總輸入額の三割强を占め、次いで英領諸國、英國、日本等の順であつた。

〔交　通〕 道路は、東部地方には餘り發達してゐないが、早くから開拓された西部地方には相當の發達を見、殊にシンガポールを基點として幹線道路が域内各重要地に通じてゐる。鐵道の發達は未だ十分ではなく、最近の延長は約一千七百粁である。シンガポールを基點とし、東岸線と西岸線との二大幹線が北上し、泰國の鐵道と連絡してゐる。又海上交通は甚だ盛んにして、シン

ガポールの如きは東亞に於ける海運の基點となつてゐたが、今次戰爭の進展に伴ひ、現在には大混亂の狀態に陷つてゐる。尙又航空交通に於ける英領マレーの地位も亦重要であり、シンガポールは航空交通に於ても東亞の基點となつてゐる。卽ちロンドン・シドニー線、アムステルダム・バタヴイヤ線は共にシンガポールに寄航してゐる。

五　蘭領印度

〔地　域〕蘭領印度とはオーストラリアと亞細亞大陸との間に橫たはる三百有餘の蘭領印度諸島の稱にして、スマトラ、ジャヴア、ボルネオ、セレベスを含む大スタンダ群島、バリー、ロムボック、スンバワ、フロレンス及チモール島の西南部を含む小スタンダ群島、ジロロ、セラム、ブール、スラを含むモルツカ群島及ニューギニアをも含んでゐる。

〔面　積〕總面積は約百九十萬平方粁にして我が國の夫れの約三[redacted]倍、オランダ本國の五十八倍にも相當する廣大なものであり、單に葡領ニューギニアのみでも我が本州に比し遙かに廣大である。

〔人　口〕總人口は約六千七十餘萬にしてその中の約七割の四千二百餘萬人がジャヴア及それに隣接するマヅラ島に集中して居り、一平方粁當り三百十六人といふ稠密さを示してゐる。而してその中、土人卽ちインドネシヤ系のマレー人が四千百萬人でその大部分を占め、次いで華僑の百萬人、白人の二十三萬人の順序にて、一九三九年調査による在留日本人は約九千人であつた。

〔氣　候〕全土が熱帶に屬するため高溫、多濕にして寒暑の差殆どなく赤道氣候帶に屬してゐる。一年の平均溫度は二十五度であり、雨量は極めて多い。

〔歷　史〕蘭領印度の歷史を詳細に繙く暇はないが、最初の歐洲人としてマルコポーロが渡來したのは古く一二九二年のことであつた。爾來ポルトガル、スペイン、オランダの海外制覇の對象として波瀾に富む數世紀を經たのである。殊にオランダと英國の蘭印獲得競爭は熾烈を極めたが、一八一六年印洋に關する英蘭植民地協定が成立し、以後完全にオランダ領として存在して來たものであり、一八二四年のロンドン協定の結果、英蘭に關しては略々現在の勢力關係に落着いたのである。蘭印がオランダ領になつて以來、本國の極端な暴政は屢々土民の反亂を惹起したが、第一次歐洲大戰後には國民參議會が設置せられ形式的には自治植民地となり、更に一九二五年に

至り現行政治組織の根幹たる蘭印行政法の公布を見るに至つたのである。

〔幣　制〕　一九三六年九月金輸出を禁止して以來管理通貨制を採用してゐる。貨幣の單位は普通ギルダーであるが、この地特有の貨幣をも有しその單位はセントである。

〔言　語〕　蘭領印度にて使用されてゐる言語は實に三百種の多きに及んでゐるが、一般に普及してゐるのは蘭印マレー語である。華僑の間には支那語も使用されてゐることは勿論であるが、彼等華僑の使用するマレー語を通常ババマレー語と呼んでゐる。尙公式用語はオランダ語であり、商業用には英語も用ひられてゐる。

〔住民とその特性〕　住民の大部分はインドネシア系のマレー族であることは人口の項で既に述べたが、その種族は移住の時期及移住後の生活環境の相違等から五十餘の支族に分れ、その主なるものはジャヴア族、スンダ族、マヅラ族等である。又種族的に最も優秀なものはミハナサ族で、多くセレベス島の北端に居住してゐるが、この種族は極めて親日的にて彼等の祖先は日本人であると稱し、東郷元帥や乃木大將の寫眞等を掲げてゐるといふ。マレー族は概して性質温順であるが、射倖心强く且怠慢で、その九割五分までは文盲であると謂はれてゐる程に文化の程度も亦低い。又その人口の九割までが回教徒であるため、戒律を守つて金錢に對して無慾な生活を送り、計數の觀念に乏しく、一生の念願たるメッカ巡禮のためには全資財を投げ出すも厭はない有樣であるから、その經濟力は益々弱化し、オランダ人及在蘭印華僑によつて經濟的に壓迫せられつつある現狀である。

〔華　僑〕　その數百二、三十萬と推定されてゐるが、實數はそれよりも遙かに多いことは明かであり、彼等は古くから土着して商業及農業を營んでゐる。殊に商業上に於ける彼等の勢力は此處でもまた非常なるもので、蘭印の經濟界を左右するに十分である。

〔資源及產業〕　蘭印は資源的に世界の寶庫と稱されて居り、農產、林產、鑛產の諸天然資源に富み世界有數の原料生產地であるが、農產物殊に護謨、砂糖、胡椒の如きは世界の市場を左右する程の生產額を見せてゐる。而も開拓せられてゐるのは僅かにジャヴア、マヅラ及スマトラの一部のみであるから、その將來は期して俟つべきものがある。又林產、鑛產の兩資源に就ても然りで、錫、石油、護謨の如きは列强注視の的であり、殊に貿易が現在既に年々巨額の輸出超過を示してゐる狀態にある事實を見れば、その資源的價値が如何に大なるものであるかを推察するに十

分である。

先づ農產物では護謨が首位を占め、一九三九年度の生產額は三十七萬二千噸にして英領マレーに次いで世界第二位であり、世界總產額の約三割七分を占めてゐる。

次いで砂糖は嘗て年產三百萬噸を生產したが、現在では生產制限を受け約百七十萬噸を產出してゐる。その他、規那は世界總產額の九割三分を產出し、胡椒、カポック、麻等の外、茶、煙草椰子油、コプラ、パーム、珈琲等も豐富である。米も殆ど自給自足出來る程度に產出する。

鑛產物も亦その種類は極めて多いが、石油は一九三八年度の產額七百四十萬噸で世界第六位を占めて居り、從來主としてスマトラ、ボルネオから產出せられて來たが、最近ニューギニアの石油も年々その產額を增加してゐる外、中部スマトラその他の未開發の地方にも有望な油田があるやうである。又錫はスマトラの東岸の諸島より產出し、これ又世界第三位に在り、世界總產額の約一割七分を占めてゐる。その他、ボルネオの金、ジャヴアのマンガン、バンカ及ビリトン島のウオルフラム、ビンカン島のボーキサイト等も有望視せられて居り、スマトラ、ボルネオ及セレベス島の鐵鑛もその埋藏量が豐富であると謂はれてゐる。尙水產業は、魚貝類豐富なるも漁撈法

幼稚なるため未だ見るべきものはないが、その將來には大いなる期待がかけられてゐる。

〔貿　易〕對外貿易は殆んど常に出超を示してゐるが、試みに一九三九年度に於ける輸出入狀況を見るに、輸出七億七千萬ギルダー、輸入四億六千九百萬ギルダーの輸出超過となつてゐる。その主要輸出相手國は亞米利加合衆國、シンガポール、オランダ等であるが、米國向け輸出は蘭印輸出總額の一九・五％を占めてゐる。又輸入相手國はオランダ本國が首位を占め總輸入額の二〇・五％を占め、次いで日本、米國の順である。

次に輸入商品は織物、食料品、機械類、金屬製品、米、紙、雜貨等であり、輸出品は護謨、石油、樹脂、砂糖、茶、錫、コプラ、煙草等の農產物乃至原料品である。尙日本と蘭印との貿易は最近までは極めて盛大にして、日本よりの輸出は一億四千萬圓、主として綿織物、人絹、織物、メリヤス製品、鐵製品等であつた。これに對し輸入は鑛油、生護謨、鑛石、木材等を主とし、その總額は七千二百萬圓に達した。

〔交　通〕道路は一般に發達し、殊にジャヴアが最も發達してゐる。鐵道は現在約七千五百粁、その中五千四百粁はジャヴアにあり、主要都市は概ね鐵道で連絡されて居り、ジャヴアに於ける

鐵道密度は我が國に劣らない。その他スマトラに約二粁、セレベスに約五十粁の鐵道がある。又海上交通は、その地勢的關係から著しい發達を見せて居り、航空網も亦相當に發達してゐる。

六　フイリツピン

〔地　域〕　フイリツピンは亞細亞大陸東南太平洋上、我が臺灣より南方を去る百六十粁の地點に群在する大小七千八十三の島嶼より成つてゐる。

〔面　積〕　その總面積は二十九萬六千平方粁にして我が本州、四國竝に北海道を合せた程の大きさである。中でもルソン島が最大にしてその面積十萬六千平方粁に及び、次いでミンダナオ島の九萬六千平方粁であり、これ等の二島のみにて全面積の三分の二を占めてゐるが、人の住み得るのは全群島中の約半分と謂はれてゐる。

〔人　口〕　一九四〇年に於ける推定人口は約千六百萬餘となつて居りその密度は一平方粁當り平均五十四人である。又その人口增加率は極めて高く近年では時に千分の四十近くの增加率を示すことがある。人口の大半を占むるものはマレー系統に屬するフイリツピン人であつてこれのみで總人口の九割以上を占め支配的の種族を構成してゐる。その他外國人十八萬に達し、そのうち中國人がその七割を占めてゐる外、スペイン人、アメリカ人、イギリス人等があり、一九四〇年の調査による在留邦人は約二萬九千人餘であつた。

〔氣　候〕　この地は熱帶圏內に屬するため、高溫にして一年を通じて氣溫の差は大きくないが、亞細亞季節風及貿易風の勢力下にあるため、四時海風に和らげられ豫想外に涼しく、夏季は日本よりも却つて凌ぎ易い程である。又モンスーン地帶にあるため雨量頗る多く、一箇年平均二千粍內外を示してゐる。

〔歷　史〕　十五世紀の末葉より十八世紀の末葉迄はスペイン領としてスペインの搾取を受けてゐたが、米西戰爭によるスペイン敗戰の結果一八九八年十二月一日兩國間の條約により、米國は二千萬ドルの償金を支拂ふと共にフイリツピンをその屬領としたのである。その後、一九〇七年以降米國議會はフイリツピンに對し民選議會の召集を許可し今日に至つてゐる。

〔幣　制〕　貨幣制度は金本位制にして貨幣の單位ペソはドルにリンクし、一ペソは米貨五十セント、我が二圓內外に相當し、流通貨幣は銀貨、銅貨及紙幣であるが、これ等を種類別に示せば、

一センターボ、五センターボ、十センターボ、二十センターボ、五十センターボ及一ペソであり、又紙幣では一ペソ、二ペソ、五ペソ、十ペソ、二十ペソ、五十ペソ、百ペソ及五百ペソの八種がある。

〔言　語〕古來フイリッピン人は自國語を持たざる人種であるが、その民族的關係からマレー語が原語となつてゐる。併し憲法その他の法律竝に公用には英語竝にスペイン語が用ひられ、殊に英語は全島を通じて話されてゐる。然るに國語統一の必要上一九四〇年六月十九日土語タガログ語を以て國語とすることに決定、爾來全島の公私立學校に於てこのタガログ語が教授されてゐる。

〔住民とその特性〕先住民族はネグリトと稱する黑人であつたが、南方から移住して來たインドネシア族に次第に驅逐せられ、現在では殆んど山間地方に追はれてしまつてゐる。スペインの領有後、スペイン人とインドネシア族が混血し今日のフイリッピン人を生み出してゐる。併し古くより渡來してゐた中國人の血統も混ぜられ、單にフイリッピン人と呼ぶも多數の種族より成つてゐる。卽ちビサヤ、タガログ、イロカノ、ビコール等の比較的文化程度の高い種族からモロー、バコボ、イゴロテ等の未開種族に至るまで極めて多種に亙つて居り、これ等の所謂フイリッ

ピン人は、前述した如く、全人口の九〇%以上を占めてゐる狀態である。今、その特性に就て見るに、フイリッピン人は衣食住に惠まれた熱帶民族の常として一般に怠惰で、勤勉の風を缺き、何事にも執着心に乏しく、又貯蓄心なく、經濟觀念に乏しい。唯、彼等は享樂的であつて飲酒と賭博とに熱中し、虛榮虛飾を好み、筋肉勞働を嫌ひ、勤勞を蔑視し、且實行力と決斷力とを缺いでゐる。要するに功利的、個人主義的、非獻身的であるが、これ等は將に甦らんとする今日のフイリッピンの爲まことに悲しむべき事實である。併しフイリッピン人は他面、宗敎的な民族であり、而してその中キリスト敎に屬するものは全人口の實に九割を占めその數約一千四百萬人に達し、うちロマンカソリック敎徒は約一千三百五十萬人であり、殘部の五十萬人はキリスト新敎徒に屬してゐる。更に非キリスト敎徒に屬せるものもその大多數は回敎徒であり、その數約五十萬人と稱されてゐる。その他三萬五千人の佛敎徒がある。

〔華　僑〕華僑の數は正確には知り得ないが、一九三四年度現在の調査に據れば十一萬三百人となつてゐるが、現在では大體十二、三萬と推定されてゐる。華僑の經濟界に於ける勢力は極めて牢固にして、この地に於ける商業權の大部分はこれ等華僑の手に握られて居り、全投資額二億

七千萬ペソの中、實に一億一千百餘萬ペソを占めてゐると稱されてゐる。

〔資源及產業〕 フイリッピンは豐富なる農產資源に惠まれた原料生產國であり、從つてその產業も農業を根幹としてゐる。耕地面積は全土の五〇%に達し、米、甘蔗、古々椰子、麻、煙草、玉蜀黍が栽培されてゐる外、護謨、カポック、珈琲等の生產もあり、その將來を期待されてゐる。

林業は農業に次ぐ主要產業にして、近年製材業の盛んとなると共にその伐採高も漸時增加の傾向を示してゐる。主として建築材及家具材を產する外、籐、竹、規那皮等をも產してゐる。

水產業は魚族豐富なるにも拘らずその漁撈法が甚だ幼稚なるため、未だ發達の緒について居らず、年々四百萬ペソの魚貝類を輸入してゐる狀態である。

鑛業に於ては金及鐵の他は未だ企業には適せないが、クローム鑛山が最近諸處に發見せられるに至り、その他マンガン、石炭等がある。尙セブ、レイテ、ミンダナオの諸島には油田が發見せられたが、孰れも餘り有望視されて居らず且未だ產油を見るに至らない。

工業に於ては、製糖業が首位を占め、砂糖の年產約百萬瓲、世界大產地の一つである。次いで製油業、セメント工業、精米業、煙草製造業、紡織業等が擧げられる。

〔貿易〕 前述の如くフイリッピンは他の南洋諸國と比較して、現在までのところ、特に優良なる鑛產物を持たず、農產物以外には見るべきものなきにも拘らずその貿易尻は常に出超を示し、且又住民が比較的高度な生活を營んで來たのは、その農產物が米國に無稅で輸出せられ、米國からは諸必需品が無稅で輸入せられてゐたがためであり、その結果輸出入共にその總額の六割乃至八割は米國に占められ貿易上の死命を制せられてゐた狀態である。日本は、最近までは米國に次ぎ輸出入共第二位にあり、日本からの輸入は主として綿絲布、雜貨等であり、日本は麻、木材等を輸入してゐた。

〔交通〕 スペイン領有時代から當局者は道路の開發に努力して來たが、合衆國の領有以來、一段とその開設改善に努めた結果道路網は都市を中心として各地に設けられ、一九三七年末には道路の全延長一萬九百二十五哩に達した。然るに他方鐵道の發達は極めて遲れてをり、一九三七年末現在にて官營六百七十八哩、私營百三十二哩であつた。船舶も、貿易に於ては最近までは日、米、英の船舶が盛んに出入して居り、又この地が大小七千餘の島嶼から成つてゐるため沿岸航路は頗る發達してゐる。又航空網の發達も極めて顯著である。

七　英領ボルネオ

〔地　域〕ボルネオ島に於ける英領とは、同島の北部を占むる北ボルネオ竝にブルネイ、サラワクの兩王國の稱である。

〔面　積〕北ボルネオは我が臺灣の二倍强の約七萬五千平方粁、ブルネイ王國は六千五百平方粁、サラワク王國は臺灣の約四倍の十二萬四千平方粁である。

〔人　口〕北ボルネオ約三十萬、ブルネイ三萬八千、サラワク約六十萬、總計約九十四萬にして一平方粁の平均人口密度は僅か四人に過ぎず、東亞では最も人口密度の小なる地方となつてゐる。

〔氣　候〕熱帶性氣候で、一年を通じ氣候の變化小にして而も高温であるが、海岸近くは海風のために氣温が緩和される。雨量は概して多い方である。

〔歴　史〕ボルネオ島が始めて世人に知られたのは十六世紀の始めであつたが、その後一六〇四年にはオランダの商人が渡來し、更に一七九八年に至り英國人が南岸のバンゼルマシンに植民地をたて、爾來數十年に亙つて英蘭の間に紛糾を重ねたが、バンゼルマシン一帶の地が一八四二

年に遂にオランダの有に歸するに及んで始めて解決され、その北部を英領としたのである。越えて一八八八年にはボルネオ北西岸のブルネイ及サラワクの兩王國をその保護下に置いて今日に至つてゐる。

〔幣　制〕幣制は海峽植民地の延長と見るべく、二シリング四ペンスを一ドルとする金爲替本位制であり、マレー通貨が一般に流通してゐる。

〔言　語〕住民の種族が多岐に亙つてゐる關係から言語の數も亦多く、サラワク王國に於ては海岸地方はマレー語、內陸地帶はダイヤ語、北ボルネオに於ては海岸地方はマレー語が使用されてゐるが、內陸地帶はヅスン語といふ如く區々であり、その他官廳用語としては英語、公用語としては英語竝にマレー語及支那語が用ひられてゐる。

〔住民とその特性〕人口小なるにも拘らず、その種族多岐に亙るため、風俗習慣も亦非常に異つてゐる。併し一般に文化の程度が非常に低く民族意識に乏しく、温順で統治し易い民族である。又土人は多く原始的なアミニズムを奉じてゐるが、回教も奉ぜられ、キリスト教信者もある。

〔資源及產業〕農產及鑛產資源は相當多いがその殆んどは未だ開發されてゐない。林產資源も

亦豊富である。主要農産物は護謨、サゴ椰子、古々椰子、米、煙草の外カポック、珈琲、胡椒、玉蜀黍等も少量ながら栽培されてゐる。

鑛産資源に就ては地質調査不十分の爲その殆どが不明であるが、石油事業だけは約三十年前より行はれて居り、蘭印に次いでの大石油生産地と稱されてゐる。その他石炭、鐵、銅、亞鉛、マンガン、金、アンチモニー等が擧げられる。

又原生林が全地域を蔽ふてゐる事實から林業の將來には大いなる期待がかけられてゐる。

〔貿　易〕　一九二九年の不況以來不振であつたが、最近は護謨により稍好轉してゐる。輸入品では米及食料品、織物類が多く、輸出品では護謨及石油が主なるものであり、次いで木材がある。

〔交　通〕　北ボルネオが最も進歩し鐵道も敷設されてゐる。鐵道は一八九六年に始めて敷設されたもので、現在では延長二百粁に達してゐる。海運もシンガポール、香港間に開かれてゐる外相當に發達してゐる。

八　葡領チモール

〔位　置〕　葡領チモールは蘭領印度スタング列島の南にあるチモール島の東半部及アムベノ地方と隣島のプロカムピン島及プロジアコ島の諸島から成つてゐる。

〔面　積〕　約一萬九千平方粁である。

〔人　口〕　約五十萬である。

〔氣　候〕　海岸地帶の熱帶的氣候であるのに反し、山岳地方は常春の氣候に惠まれてゐる。冬季は雨に乏しい。

〔歴　史〕　チモール島は一八五九年四月の條約によつてポルトガル領とオランダ領とに二分せられ、その後更に一九〇四年十月一日の協定により領土の交換が行はれ、東經一二五度以東をポルトガル領、以西をオランダ領と定められ、而してアムベノ地方がポルトガル領となつたものである。

〔言　語〕　土着民の言語はマレー語に似てゐるが、この島獨特の發達をとげたものであつて特にチモール語と呼ばれてゐる。この外、四世紀に亙るポルトガルの統治によつてポルトガル語も普及してゐるが未だ一般に使用されるまでには達してゐない。

〔住民とその特性〕 住民の大部分は土人であつて、歐洲人は二千人位に過ぎず、外に中國人二千人、アフリカ人三百人、印度人百人が居る。土人はバプア族で、大部分回教を信じ、又都市に住居するものは舊教を信じてゐる。文化程度低く一般に無智である。

〔資源及産業〕 この地の主なる産物は農産物にして、土着民は所謂燒畑式の原始農業を經營してその食糧たる玉蜀黍、陸稻を作つてゐる。又珈琲竝にコプラはこの地の主要なる輸出品にして相當に栽培せられ、尙最近では棉花、規那も漸く栽培せられるに至つた。更に鑛産物では金がその主なるもので川岸の砂から採取せられてゐる外、石油、銅、マンガン及錫等の鑛床があるが、ポルトガル政廳は外國人の不動産の取得を禁じてゐるため之が採掘も未だ行はれてゐない狀態である。

〔貿易〕 首都デリーは本島の北岸に位し當領唯一の貿易港であるが商人は主として華僑である。一九三三年度の輸入額は百十萬バタカスにして輸出額は七十三萬バタカスであり、南洋の他の諸國と異つて入超である。主なる輸出品は前述の珈琲竝にコプラの外、白檀、蠟等がある。

〔交通〕 この地には鐵道はないが、道路の發達は概して進み、四百九十六哩の比較的整備せる道路網を有してゐる。海運では首都デイリーに於ける一九三三年度の入港船舶は二百二十三隻、十一萬六百十三噸にして、出港船舶は二百二十六隻、十萬七千五百九十七噸に上つた。

九　米領南太平洋諸島

グアム島 グアム島はオセアニヤ洲ミクロネシア群島中のマリアナ列島の最南部を占め、同列島中最大のものにて、北緯一三度二六分、東經一四四度四三分に位してゐる。

本島は珊瑚礁に圍繞せられ、北々東より南々西に延び、長徑三十二哩、短徑四哩乃至十哩にして總面積約二百二十五平方哩の島嶼である。その中部西岸のアプラ灣は天然の良港をなし最近まで堅固なる要塞が築かれてゐた。氣候は、熱帶圏内にあるも概して温暖にして凌ぎよい程度である。アプラ港の投錨地より約八哩を距てた海岸には島廳の所在地たるアガニアの町があるが、一般出入船舶の寄港地はアプラ港の奥にあるピチである。

一九三七年六月末日現在における本島の人口は二萬二千百三十七にして、その中土民が二萬六百六十二人を占めてゐるが、これを一九三〇年四月一日現在の一萬八千五百九人に比すれば三千六百二十八人の增加である。

今、本島の歴史に就て一言するに、グアム島は嘗てスペイン領であつたが、米西戰爭の結果、一八九八年十二月十日パリ媾和條約によつてスペインより合衆國に讓渡せられたものである。本島はマリアナ列島に屬する一孤島にして特筆すべき經濟的價値は有せざるも、太平洋上の交通の要路に當り軍事的には重大なる意義を有するを以て、合衆國政府は領有以來之が經營に努力し、海軍省の管轄の下に軍政を布き大海軍根據地を建造し來つたが、今次戰爭勃發と共に逸早く日本軍の爆擊せるところとなり、昭和十六年十二月十日遂に日本軍は本島に上陸アプラ港を占領、次いで翌十一日には首都アガニアを占領、十二日には遂にグアム全島を完全占領したものである。

次に產業に就て見るに、農業が主で、その他木材を產し畜產業も相當に行はれてゐる。卽ち、玉蜀黍、コプラ、米、甘藷、珈琲、バナナ、鳳梨、蜜柑、カカオ竝に甘蔗等の產物があるが、就中コプラはその主なるもので一九三六—七年には二千六百噸の輸出を見て居り、又椰子油も主要なる輸出品に數へられゐる。その他、牛約三千頭、水牛約一千五百頭が飼養されてゐる。

更に外國貿易に就て見れば、一九三七年六月末日の發表によれば、本島の輸入は七十七萬四

千二百四十四ドル、輸出は二十一萬五千二百三ドルであつた。

最後にグアム島に於ける言語は主としてチヤモツロ語であるが、スペイン語竝に英語も亦使用せられてゐる。

サモア島

米領サモア諸島の歴史は一八七二年にツツイラ島のパゴパゴ港が海軍根據地竝に炭水補給港として合衆國に讓渡せられたことに始まる。越えて一八七八年自由貿易權及治外法權が認定せられるに至つた。由來サモア群島は獨立王國として太平洋諸國中最後まで殘つた國であつたが、遂に一八八九年六月十四日のベルリン會議により英、米、獨の三國間に條約が締結せられサモア群島はこれ等三國保護の下に英米側の支持せる酋長の國王たることを承認して中立國となつた。然るにその後內亂が起り、獨逸對英米の戰爭となり、一八九九年十一月十四日再度のベルリン會議開催の結果、英國はその領土的欲求を放棄し、獨米兩國がこれを分轄して西經一七一度を境界として、以西を獨逸領、以東を米國領と定めたのであるが、獨逸領はその後世界大戰の結果、爾來今日に至るまでニユージーランドの委任統治地となつてゐる。

米領サモア諸島の總面積は七十六平方哩にしてその人口は一九三〇年現在にて一萬五十五で

あり、而して一九三八年七月一日に於ける推定人口は一萬二千二百餘となつてゐる。主島ツツイラ島はアピアを距る七十哩に位し、その面積四十平方哩、人口はアンニュ島を含みて七千八百九である。その他タウ島は十四平方哩、オフ及オロセガの兩島は約四平方哩にして以上の人口は二千五百十一である。又一九二五年併合を見たるスワイン島は長徑二哩、短徑半哩乃至一哩であり、その人口は一九三八年度現在にて百四十八であつた。パゴパゴ港はサモア唯一の良港にして米國海軍の根據地として最近に至つては特に之が防備に全力を傾けてゐる模樣である。

米領サモアは概ね火山性なるも地肥沃にして氣候は熱帶性であるが極めて快適にして且健康的である。本島には又公有地なるものなく、土地は殆ど全部土人の所有に係つてゐる。地味豐饒なるため果實はオレンヂ、ライム（レモンの一種）、バナナ、マンゴー、西洋梨等を多く產し、主要產物はコプラにして年產額は一千乃至一千五百噸に上つてゐる。

更に外國貿易に就て見れば、主要輸出品はコプラ及土人工藝品にして、一九三七年度に於けるコプラ輸出高は七百十噸、七萬四千百三十九ドルであつた。尙同年度に於ける輸入總高は二萬六百六十二ドル、輸出總高は十一萬五千七十二ドルであつた。

附錄

一、最近のハワイ事情

概觀—軍備—產業—貿易—交通及通信

二、米領太平洋航空基地概觀

ミッドウエー島—ウエーク島（大鳥島）—ハウランド島—ベーカー島—カントン島—エンダーベリー島—パルミラ島—ジャーヴイス島—ジョンストン島

一　最近のハワイ事情

概　觀

ハワイ諸島はポリネシアの北部、北太平洋上にあり、北西より南東に延び八個の比較的大にして港灣に富んだ主島より成り、北緯一八度五四分乃至二〇度一四分、西經一五四度四八分乃至一六〇度一三分に及んでゐる。尙北西に十數個の無人島を連ね西經八〇度、北緯三〇度に達せんとして居り、サンフランシスコより南西約二千哩の距離に在る。

ハワイ諸島の緯度は殆ど我が臺灣の南部に相當し、熱帶圏內に屬するも、廣大なる海洋中にあるため酷熱を感ずること比較的尠く、且四季の氣溫の差小にして冬季は二十二度、夏季は二十五度內外で四時春の如く、無風の晴天が續くが、唯、東斜面の山地にのみ雨量が多い。

八主島の面積は合計六千四百五十四平方哩なるも、その各々の名稱竝に面積を示せば次の如くである。

ハワイ島	四、〇一五平方哩	マウイ島	七二八平方哩
オワフ島	五九八平方哩	カウアイ島	五四七平方哩
モロカイ島	二六一平方哩	ラナイ島	一三九平方哩
ニイハウ島	九七平方哩	カホラウエ島	六九平方哩

人種別人口の趨勢（一九三八年度）（一九三九年度）

人種別	一九三八年の總人口	全體と一九三九年の總人口の比率	全體との比率	增加比率 △は減少
日本人	一五三、五三九	三七・三一	三七・三六	〇・〇五
ハワイ人及混血ハワイ人	六二、一三五	一五・一〇	一五・三九	〇・二九
白色人種	一〇六、九九九	二六・〇〇	二五・八八	〇・一二
比島人	五二、八一〇	一二・八三	一二・六三	〇・二〇
支那人	二八、三八〇	六・九〇	六・八九	△ 〇・〇一
朝鮮人	六、七〇七	一・六四	一・六三	△ 〇・〇二
其の他	九一五	〇・二二	〇・二三	〇・〇一
計	四一、四八五	100・00	100・00	
入種別による白色人種				
スペイン人	一、二四八	〇・三〇	〇・二九	△ 〇・〇一
葡國人	三〇、四〇六	七・三九	七・四〇	〇・〇一
ポトリコ人	七、六三九	一・八六	一・八六	—
其の他の白色人種	六、七〇六	一・六四	二・三三	△ 〇・一二
計	一〇六、九九九	二六・〇〇	二五・八八	△ 〇・一二
人種別によるハワイ人及混血ハワイ人				
ハワイ人	二一、二八六	五・一七	五・一〇	△ 〇・〇七
白色人種ハワイ人混血	二〇、五〇七	四・九八	五・〇七	〇・〇九
東洋人ハワイ人混血	二〇、五六〇	四・九五	五・三	〇・二七
計	六二、一三五	一五・一〇	一五・三九	〇・二九

—ハワイ年鑑（昭和十六年度）四八頁より—

次に人口に就て見れば上表の示す如くである。

尙一九四〇年六月末日現在に於ける人口は四十二萬六千六百五十四にして前年同月に比すれば一萬一千六百六十三卽ち二分八厘餘の增加率を示してゐる。

軍備

〔陸軍〕 アメリカ政府はハワイの戰略上の重要性に鑑み、各種の軍事的施設を設けてゐる。合衆國正規

軍の駐屯兵力は一九三八年六月末日現在にて、二萬一千七百七十七名に上り、同國海軍駐屯軍の中にて最も有力なるものにして各處に完備した陸軍根據地を有してゐる。その他同年現在のハワイ國民軍の兵力は將兵合計一千八百四十名であつた。

〔海軍〕 ハワイはまたアメリカ海軍の太平洋作戰の中樞地點にして、且ワシントン軍縮會議以來特に重要性を加へて來た。斯くてアメリカ海軍は太平洋岸及ハワイの防備に全力を傾注するに至り、ハワイをしてアメリカ海軍の最大根據地たらしめんとして、難攻不落と自負する一大要塞を建造中である。今回の大東亞戰爭勃發劈頭皇軍の大爆擊を受けたかの眞珠灣は、ホノルル市を距る七哩の地點にあり、此處にはアメリカ全艦隊を收容するに充分なる大軍港が建設されて居り、同國政府は既に五千萬ドルの巨費を投じて各種の施備に努力したところである。

産業

〔農業〕 ハワイに於ける農業は主として甘蔗栽培とパインアップルに集中されてゐる。砂糖はハワイの最大產業にして一八六〇年度にはその年產額僅かに五百七十二噸に過ぎなかつたが、一九三九年度には九十六萬八千三百二十九噸に上つてゐる。砂糖に次いでパインアップル

は、これを一九三六年度の産額に見れば、果實一千萬圓、果汁三百五十萬圓、五千百四十五萬二千四百八十三ドルにも上つてゐる。又珈琲の栽培も極めて盛んにしてこれは殆んど日本人の手によつて爲され、その産額は年々激增の傾向を示してゐる。その他バナナ、オレンヂ、煙草棉花、及米等を産し、就中米は日支人の手によつて植付けられてゐる。

〔林　業〕ハワイは古來白檀に富むを以て有名であつたが、十八世紀の末葉以來各國商人渡來し、盛んに之を濫採したるため、既に一九二〇年にはその殆どが採伐し盡され一時は非常に荒廢したが、今日猶存在せる森林數は六十四を算へその總面積百二萬七千二百九十九エーカーに上つてゐる。殊にオヒマ樹は堅牢にして黑紅色の材質を有し、長さ三十米、直徑三米にも達するもの尠からず、建築材、裝飾材として有用である。又、蠟椰子を産し、採油用として賞用せられてゐる。

〔畜　産〕畜産業はまた農業に次ぐハワイの主産業である。羊を主とし、牛も多く飼養され、羊毛、皮革の産も尠くない。又養蜂業盛んにして蜂蜜を産す。

〔鑛　業〕鑛産物では金、銀、銅、蒼鉛、錫、水銀、白金、マンガン及燐酸鹽等がある。

〔水産業〕ハワイの漁業は年産二百萬ドルに上る日本人の獨占事業である。ホノルル及ヒロの兩市にある漁業會社名とその資本金を示せば次の如くである。

ホノルル市

太平洋漁業株式會社	四萬ドル
ハワイ水産株式會社	五萬ドル
ホノルル漁業株式會社	三萬ドル

ヒロ市

ヒロ水産株式會社	三萬九千四百二十五ドル
ハワイ漁業株式會社	七千五百ドル

貿　易

ハワイに於ける外國貿易は、一九二八年より一九三三年まで一時不振の傾向を示したが、一九三四年より恢復に向ひ、一九三六年にはその最高額に達した。また年々多額の輸出超過を示してゐるが、各國別にこれを見ればアメリカ本國に對してのみ出超にて、他の諸國に對しては入超となつてゐる。

ハワイ貿易の最大の特徴は、アメリカ合衆國本土との輸出入が總貿易額の常に九割以上を占め、その殘りの一部分が對外貿易に振り向けられてゐるといふことである。卽ち一九三六年度の統計によれば、ハワイの合衆國よりの輸入は八千五百萬ドルにして總輸入額の九割二分を占め、又同年度の合衆國への輸出は一億二千五百萬ドルにして總輸出額の實に九割八分を獨占してゐる。この事實はハワイの經濟が全面的に合衆國に依存してゐるといふことを示してゐるものである。ハワイの對米輸出の主要なるものは砂糖及パインアップルにして對米總輸出額の八割五分までがこれ等の二商品によつて占められてゐる。その他珈琲、糖蜜等もその主なるものである。またハワイの合衆國よりの輸入は鐵及鋼鐵、機械類、鑛油を主とし、その他穀類、煙草、自動車、材木及建築用具等がある。

交通及通信

〔交　通〕ハワイ群島の山岳特質と、海岸に沿うての耕地及住民の分布狀態の關係から、各島とも循環道路が極めて發達してゐる。最近の道路延長は、市街道路を除き約三千餘哩に達してゐる。從つて交通機關としての自動車の利用は極めて盛んにして、一九三六年現在に於ける自動車數は五萬三千九百三十八臺に達し、その所有割合は人口七に對し一臺であつた。

次に鐵道もよく發達し、島內主要都市を連結し、その延長一千三十八哩にも及んでゐる。

ハワイは又太平洋上の交通の要路にあたり、船舶の出入極めて盛んにして、一九三七—八年には一千四百二十二隻、一千八十六萬一千八百三十二噸に上つてゐる。又商業空輸は現在、內島航空路會社により獨占されて居り、一九三七—八年度の乘客數は二萬六千五百三十五人に上つた。

〔通　信〕電話はオワフ島、マウイ島、ハワイ島、カウアイ島及モロカイ島の五島に設けられて居り、その延長三萬五千四百十九哩に達してゐる。又無線電信は各島間に商業用に、或は航海中の船舶、合衆國太平洋沿岸並に日本との通信に使用されてゐる。尙海底電線は太平洋沿岸各地を連結してゐる。

二　米領太平洋航空基地概觀

ミツドウエー島

ハワイ諸島の西北端卽ち北緯二八度一三分、西經一七七度二三分に位し、ハ

ワイ八島の外、唯一の住民を有する直徑約九十七粁の小珊瑚島である。

本島は一八五九年米艦ガムビアの船長ブルックスの發見に係るものにして、米布合併後ホノルル市郡に屬してゐたが、現今にては海軍省の管轄に屬してゐる。

港はウエルルスと謂ひ、吃水十七呎の船舶も入り得る。環礁南部には砂島、東方島の二島があり、砂島は廣さ八百五十エーカー、高さ四十三米、東方島は三百二十八エーカーにして甚だ低い。兩島とも草木が繁茂してゐる。砂島はホノルル經由サンフランシスコ、またグアム島經由マニラへの海底電線の揚陸地である外、空港として又潜水艦基地として軍事上樞要の地を占めてゐる。

ウエーク島（大鳥島） ミッドウエー島とグアム島の中間、ホノルルより西三千四百粁、グアムより東北二千三百粁なる北緯一九度一八分、東經一六六度三五分に位し、典型的な環礁にして高潮面上三—六米の三島を有してゐる。本島の總面積は二千六百エーカーにして、椰子はないが高さ四—五米の叢林、落葉樹を以て覆はれてゐる。一七九六年プリンス・ウイリアム・ヘンリー號の發見に係り、一八九九年米國領土となつた。鬪魚を以て有名なると共に飛行艇及潜水艦

基地として最近まで米國は大規模な設備を急いでゐたが、昭和十六年十二月二十二日遂に皇軍の上陸に引續き翌二十三日之が完全占領となつたものである。

ハウランド島 北緯一〇度、西經一七六度、フエニックス諸島の北三百浬、マーシャル群島の東南約八百浬にある面積約四百エーカーの小島である。從來は英領であつたが英國はこの島を未開發の儘永く放置してゐたところから、一九三五年五月米國は突如領有を宣し航空基地を設けるに至つた。一九三八年米國女流飛行家イヤハートの濠洲飛行に際し陸上飛行場を建設し、又無線電信局がある。

ベーカー島 ハウランド島の東南四十浬、殆ど赤道直下にある海拔二十五呎、長さ一哩の珊瑚礁である。一八三二年捕鯨船長ミカエル・ベーカーの發見に係るものにして、古々椰子を産出する外、嘗ては少量の燐礦を産したが今は既に採掘し盡されてゐる。

カントン島 フエニックス諸島中のマリー島とも稱される長さ八哩幅四哩の小島にして少量の椰子を産す。一九三六年英國帆船レイス號が來て英國旗を樹立し、翌年再航してクリスマス島に無電柱を設けた。同年六月英艦ウエリントン號は日蝕觀測隊員を乘せて本島に寄港した

が、これと殆ど時を同じくして米艦アヴォセット號も同目的で本島に來泊し、互に自領たることを主張して讓らず、遂に一九三八年三月米國政府はカントン、エンダーベリー兩島の宗主權宣言を行ひ、この兩國間に問題を起したが、米國は其の後着々施設を進め既に無電局を完成し、加ふるにミッドウエー、ウエーク兩島と同一條件の下にカントン島の使用を汎米空輸會社に許可したと謂はれてゐる。

斯くて英米兩國は同年八月兩島の主權問題解決を他日に讓り、商業、航空、國際通信機關として同島の利用に就き平等の權利を有することに協定成立を見、最近米國は本島に海陸兩用の空港を設けたと謂はれてゐる。

本島も前記ベーカー島と同じく嘗ては燐礦を産したが今は採掘し盡されてゐる。

エンダーベリー島 カントン島の東南四十浬、フエニックス諸島中の一島にして、カントン島と同樣低い小なさ珊瑚礁で錨地はないが、空港としての利用價値大なる島であり、コプラを産してゐる。

パルミラ島 北緯六度西經一六二度半に位する面積僅かに一平方哩半の小島である。一八

○二年パルミラ號船長米人ソーレの發見に係り現在ホノルル市民クーパーの私有島であつて椰子が栽培されてゐる。ハワイ、ニュージーランド間連絡の航空中繼所として米國が專用してゐる。

ジャーヴイス島 ポリネシア群島に屬し、南緯三度、西經一五九度に位する珊瑚礁の一孤島にして面積一・五平方哩、人口三十を數へ、古々椰子を産する外、少量の燐礦を産出する。一八八九年英艦コルモラント號が來島して英領としたが、その後一九三五年に米艦の占領するところとなり今日に至つてゐる。

ジョンストン島 北緯一七度、西經一七〇度に位する島にして、一八五九年頃迄は多少燐礦を産したので英國はこれを土人より借用してゐたが、一八九二年遂に併合してしまつた。然るにその後これを放棄してハワイ群島の一部として顧みなかつたため、一九三四年遂に米國はウエーク島、サンド島、キングマン礁と共にこれを占領して海軍省の直轄とし飛行艇の基地として專用してゐるものである。

印刷　昭和十七年二月五日
發行人　神戸市神戸區港岸通一丁目一六　富商工會議所
印刷所　合資會社明輝社　神戸市神戸區三宮町一丁目三二〇

製本控

14.5 函	938 號	年　月　日

共榮圈資料 臨時輯　冊

備考

14.5 938

14.5
938